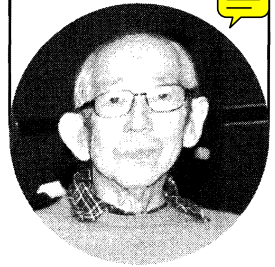


戦友録⑦

原発はトイレのないマンションだ —服部学さん—

吉川 勇一



動していた。原水爆禁止運動の分裂には強い批判を持ち、例え

横須賀市民グループの活動家で、翠夫人共々

長く当会会員でもあった原子物理学者の服部学さんが、今年の1月10日、86歳で逝去された。原発事故が大問題になっている今、服部さんのいなくなったことが、なんとしても残念だ。

私が服部さんと会ったのは1952年の「東大ポポロ事件」のときだから、以後60年という長い付き合いだったことになる。この事件は、当時警官が学内のあちこちに潜入して教授や学生たちの思想や私的行動まで情報収集していたのを学生が摘発し、3人の警官から警察手帳をとりあげて暴露した事件で、国会両院の文教委員会や法務委員会で、学長や警察署長、そして私などの学生活動家まで証人に呼び出しているの大論議になったのだ。服部さんは、助手たちでの抗議運動の中心にあり、自治会の活動家だった5歳下の学生の私に「可愛い坊やだな、援助するから」などと言ったのだ。まだ私だってふさふさの髪の毛があった少年の頃だ。

54年のビキニ事件以降、私が原水爆禁止運動で活動していた頃には、服部さんは、原子物理学者となつて、原水協の専門委員で活

ば、原水協（後に共産党系）と原水禁（途中で作られた社会党・総評系）との両方のバッジを並べて胸につけて原水協の集まりに出るようなことまでした。分裂・対立が激しくなつてからは、原水協からも離れ、夫人の翠さんとともに、横須賀の市民グループで米軍海軍基地への反対運動などで活動を続けた。原水協の初期には、核兵器と核実験には反対だが、原発を含む原子力の平和利用については、批判よりも好意的な姿勢をもっていた。だが、原子力の基礎研究者だった服部さんは、「平和利用」と言うことはなかったようで、常々「科学者の社会的責任」という言葉を口にしていた。「科学者がトイレのないマンション（原発）を作ってしまった。だからいま科学者はそれらを無くす責任を負っている」と。夫人の翠さんは、この言葉を形見として、残された人生を生きていこうと思つていと述べられている。

特に小川岩雄・吉原公一郎さんらと出した『原子力潜水艦』（1963年 文京閣）がもっとも包括的な詳細な反原子力意見だ、と詳しく報告している。だいたい頭を悩ましたようだ。服部さんは、横須賀での新倉裕史さんらのグループ「非核市民宣言運動・ヨコスカ」で自由に独自の姿勢で活動された。一例として、93年の横須賀「ピースフェスティバル」で服部さんが発表した憲法文字クイズを紹介しておこう。集まりなどで利用してみてください。（よしかわ・ゆういち／本会共同代表）

第九条スケルトン回答用紙

1993年10月24日
第8回ピースフェスティバル

●憲法第九条の横線を付けた部分の読みを、カタカナで左のスケルトンの枠の中に上手に入れてください。回答用紙は受付にお持ちください。全問正解のかたに粗品を差し上げます。

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

